

ちよっと釣道

つりみち
閲覧注意

[佐賀平野、あの夏の
足元の巨大怪魚・雷魚編]
Vol.21



5



2



3



6



4



1

①去りゆく夏に何想う…… ②何千、何万回ものフルキャスト ③噛まれたら雷がなるまで離さないと言われる所以のこの口と牙 ④まさにニシキヘビのようなスネークヘッドとはよく言った魚体。子供の頃、捕まえたぐらいのサイズかも ⑤遠くに雲仙岳が浮かび上がる ⑥麦の穂は夏の日差しに揺れる

水面爆発! …その魚ほど、この言葉がしつくりくる魚種もないだろう。ゴイツ、あの時のに似てるわ。

雷魚……。私が釣りを語る時この魚は外せない。正式名称・カムルチー、英名:スネークヘッドと呼ばれるこの魚、外観にニシキヘビの様な斑紋があり最大1mにもなる。こんな魚が実は皆様の身近な水辺に生息していることをご存じだろうか。これを釣るのは、見た目

もだが、その大きさや荒々しいファイトから現代人が忘れた狩猟に近いとさえ思う。

そんな雷魚の性質は、醜怪な見た目と裏腹に実は臆病で神経質。また稚魚を口腔内で育てる子供想いの魚なのだ。

夕立が降った後の土の匂い、森の中の湿った樹木から香り立つ匂い、おばあちゃん家の玄関の匂い。佐賀平野はそんな懐かしい匂いを思い起こさせる。夏の陽の光に掌をかざすと遠く雲仙まで見渡せその間に巨大な入道雲が湧き上がり田舎の夏休みの残像まんまの少年の頃の記憶が蘇る。

そして暑くなると、平野に黄金色の麦の穂がなびく。その様に STING の「Fields of gold」のアコギのソロの切なく

も豊かで叙情的な音色が聞こえた気がする。

ここは大麦の国内有数の産地であり、平野は網目のようにクレークが張り巡らされ、雷魚はそこで数多く生まれ育ち、全国からたくさんさんの雷魚ハンターを呼び込むほどののだ。

実はこの身近な怪魚との出会いは小学3年生に遡る。近所にある用水路を何気なく見た時に川底に埃を被る古いタイヤのようなものが目に入った。よく見るとそれは僅かに脈動しヒレらしきものを動かしている。「なに!? 生き物?」目を凝らすと斑紋が微かに見える。家に帰り父に話すと「それは雷魚かもな」と言う。頭の中はそれを捕まえない衝動でいっぱいになった。

調べると雷魚は台湾ドジョウや朝鮮なまずとも言われ、食糧難を解決するため3種が移入された外来魚らしい。

一方で最近では、そもそも北海道にはアムール川に生息していた亜種が国産で生息していたとされる。ある意味外来魚でもあり純国産魚でもあったのだ。そこらの鯉の方が今ではよっぽど外来魚と認定されている。

どうしても雷魚を語ると長く

なるが、少年は網を手にした雷魚をすくに行き一日かけてゲットした。その個体は50cm前後の中小型だったと思うが小学生の目には巨大な謎の怪魚にしか映らない。当時近くにあったTV局にそれを持つていこうとしたが(笑)玄関先に転がる怪魚をみたおばあちゃんから逃がしてきんしゃい!と一喝され、結局逃がすことにした。

時は過ぎ中学生になると雷魚は平和台の堀にたくさんいると知り、餌で釣った小ブナをお堀の水蓮の間に垂らす。それをガバツと雷魚が襲う。これが釣った最初であったのは暗示かもしれない。

そして大人になり、車という機動力を手にし効率的に魚を狙える様になると佐賀平野に多く生息していると知る。

でも仕事で佐賀に赴任してから、それは日常になり特別で無くなる。いつしかその釣りはしなくなつた。それでもハスやヒシに覆われた水面から「バシユッ」と捕食音が響くと萌える。そして優しく揺れる大麦の穂を見やり夏の匂いが鼻腔を擦ると、あの頃の狩りへの高揚感、雷魚の暴力的なファイトを思い出すワケよ。